

令和3年度 第11回卒業式 式辞

冬の寒さが和らぎ始め、うららかな春の訪れを感じさせる今日の佳き日に、保護者の皆様の御臨席を賜り、第11回卒業式を挙行できますことに衷心よりお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業を迎えた証となる卒業証書を授与された今、3年間の思い出が去来し、胸がいっぱになっていることと思います。

保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。お子様の立派に成長した姿を御覧になり、喜びで満ち溢れていることと拝察いたします。お子様の在学中は、本校教育活動に対する御理解と御協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは、3年間にわたり、高等学校における教育の基礎・基本となる普通教科とともに、各学科の専門的な知識や技術の習得に励みました。また、課題研究等の研究活動、学校行事、部活動やボランティア活動等に友だちや先輩、後輩と取り組みました。これらすべての高校時代の経験は、成果や結果の如何を問わず、取組の過程において皆さんを大きく成長させてくれたことと思います。

しかし、コロナ禍において、様々な行事が縮小・中止となり、中学生の頃に描いていた高校生活とかけ離れてしまったかもしれません。幾度かの感染症の流行に遭遇した人類が、尊い命や社会・経済への犠牲を払いながら、その危機を乗り越えてきた歴史は、皆さんにとって1年生の3学期を迎えるまでは教科書の中の出来事でした。新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活に不意に訪れ、そして猛威を振るい、第1波では全国一斉の休校を余儀なくされました。

2年に及ぶコロナ禍で一変した高校生活ですが、「人間万事塞翁が馬」という言葉が示すとおり、辛い出来事をもポジティブに捉える強い心や柔軟な心を持ち、乗り切らねばなりません。将来、「コロナ禍を経験した高校時代があったからこそ、困難な社会を逞しく生き抜く力を身に付けることができた」と思える日が来ることと思います。

また、感染症対策の一方で、日本政府はAI、IoT、ロボット、ビッグデータ等の革新技术を産業や社会に取り入れた新たな未来社会Society5.0の到来に備えるとともに、「持続可能な開発目標」いわゆる「SDGs」の実現に向けた人材育成に取り組んでいます。

この「SDGs」は、成長の限界に気付いた世界中の企業やNGOが30年以上に及ぶ議論を重ねた末、2015年国連サミットにおいて採択された後、「持続可能で、誰一人取り残さない世界」の実現を目指し、各国でその具体的な取組が始まっています。日本政府も、経済・社会・環境等のあらゆる分野において、今までのやり方が通用しなくなることを認め、「持続可能」というキーワードの下、具体的な取組を推進しようとしています。

いずれ、コロナ禍は終息するでしょう。そして、その後に訪れるであろう新たな社会で皆さん一人一人が活躍するためには、Society5.0やSDGsに対応できる人となるよう学び続けていかねばなりません。今日は、高校卒業という節目ですが、予測のつかない時代を生き抜くための学びのスタートでもあります。

自分の人生は自ら学び、自ら創り上げていくものです。卒業を迎えた今こそ、自分の目標に向けて思い切り行動できる時です。それに伴い、幾多の困難が皆さんの行く手に立ち塞がることでしょう。そういう時のために、校訓「潔己」「至道」「振徳」が教える「自分の心を清らかにし、行いにけじめをつける」、「まことの道を歩む」、「恵み施す強く優しい心を社会のために生かす」ということを実践し続けてください。そうすれば、困難に当たった時に、手を差し伸べてくれる人が身近に現れ、問題の解決について一緒に考えてくれるはずです。

桜の花が満開になる頃には、新たな生活が始まっていることと思います。ここまで育ててくれた保護者や身近な方々への感謝を忘れないでください。そして、まだ見ぬ多くの良き人との縁に恵まれながら、幸多き人生を送られることを心より祈念し、式辞といたします。

令和4年3月1日

宮崎県立日南振徳高等学校

校長 山下 勉